

No. 32
2010.4

特集 内定の喜びは 「学び」の中にあつた！ 就活応援メッセージ

- 06▶就職戦線レポート 「氷河期」に問われる学力、人間力
- 08▶十文字ニュース 留学生別科「日本語スピーチコンテスト」 etc.
- 10▶教育・研究最前線 増田吉史教授
- 11▶研究室訪問 平野多恵准教授
- 05▶学位記授与式・入学式
- 12▶学科トピックス
- 14▶役職紹介・人事異動
- 15▶公開講座
- 16▶入試情報 / 大学院スタート



TOPICS 2011年4月 新体制スタート

新体制となる人間生活学部には、7つの学科が設置されます。それぞれの専門分野を深めることはもちろん、働く女性として生きるチカラを育む学びや、他学科の専門科目を学ぶことも可能になります。

人間生活学部	幼児教育学科	150名
	児童教育学科	50名
	人間発達心理学科	100名
	食物栄養学科	120名
	人間福祉学科 (社会福祉コース / 介護福祉コース)	60名
	生活情報学科	100名
	メディアコミュニケーション学科	100名
設置予定(ただし予定であり、変更する場合があります)		
短期大学部	文学科	
	国語国文専攻	70名
	英語英文専攻	70名

オープンキャンパス&編入学入試情報

オープンキャンパス

日程▶6月20日(日)
7月11日(日)・25日(日)
8月1日(日)・22日(日)
9月12日(日)・26日(日)
10月10日(日) \ 11月28日(日)
12月12日(日)

時間▶13:00~16:00

内容▶

学科紹介、学生と話そうコーナー、学科別個別相談、入試相談、アカデミック展示、在学生によるキャンパスツアー

など

入退場自由、事前予約不要。各詳細は本学ホームページをご覧ください。

AO入試説明会

AO入試は本学の教育理念や志望学科の教育内容に関心を持ち、本学で学びたいという希望を持った方が対象です。

日程▶4月24日(土)
5月15日(土)
6月5日(土)

時間▶13:00(全体説明)~15:00

オープンキャンパスでもAO入試に関する相談を行っています。



2011年度
大学案内パンフレット

編入学入試

募集学部学科 / 編入学年次 / 募集定員

<社会情報学部>

社会情報学科 / 3年次 / 5名

コミュニケーション学科 / 3年次 / 5名

<人間生活学部>

児童幼児教育学科幼児教育専攻 / 3年次 / 10名

人間福祉学科(社会福祉コース) / 3年次 / 5名

人間発達心理学科 / 3年次 / 5名

編入学相談日程

オープンキャンパス開催日に編入学相談を実施します。学科教員が個別に対応しますので、受験をお考えの方は、ぜひご参加ください。開催日時は「オープンキャンパスのご案内」をご覧ください。

【お問い合わせ】 募集・入試センター フリーダイヤル:0120-8164-10 E-mail: boshuu@jumonji-u.ac.jp



大学院人間生活学研究科 食物栄養学専攻

この4月に開設された本学初の大学院に6名が入学。本学新卒者3名、社会人3名(他大学出身者1名を含む)が、特別研究を中心とする学びを開始します。

じっくり研究を深めるため 大学院への進学を決めました

佐藤香織

人間生活学部食物栄養学科 2010年卒業

学部課程での卒業研究は、ダチョウ卵と鶏卵の違いについて、主に文献調査に基づいて進めました。栄養素の違いはもとより、成分量の比較も行います。例えば、アレルギー性。鶏卵に食物アレルギーがある人でも、ダ

チョウ卵なら起こらないのでは、などの仮説を立て、培養細胞でつくった抗体についてそれぞれの反応を確かめました。こうした研究をもっと深めたいと思い、十文字学園に新設された大学院に進むことにしました。将来は食品メーカーで、アレルギーを引き起こさない食材、ボリューム感のあるダイエット食材、液状食材の固体粉末化など、材料そのものから新しい商品開発をしていきたいと思っています。



編集後記

改めて、今年度より『新座だより』編集長になりました。社会情報学部コミュニケーション学科3年の中園千絵です。編集部発足当初から誌面づくりに携わってきた私にとって、とても思い入れの深い冊子です。先輩から受け継いだこの『新座だより』をこれからもさらにより

ものにして、たくさんの人に読んでいただきたいと思います。新学期を迎え、学生編集部員もみな新しい気持ちで取材に臨んでいます。これからも部員一同、よろしくお願ひします!
(中園千絵:編集長)

新座だより 第32号 2010年4月26日発行

発行人: 岡本英之(企画室長)

編集長: 中園千絵

監修: 大西正行 編集事務: 三野裕子

発行: 十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28

Tel. 048-477-0555 (代表)

*『新座だより』へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jp まで。

就活応援メッセージ

内定の喜びは「学び」の中にあっただ!

社会が教えてくれた働く楽しさ

夢は大きく、たくましく。

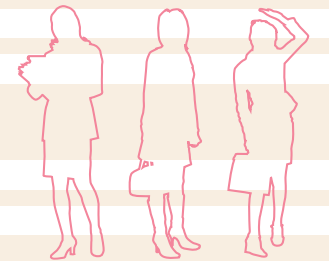
「なりたい自分」の姿に向かって走れば

その先に必ず大きな道が開けてくる

就職難の今こそ耳を傾けたい

自己実現を目指して社会で輝く

十文字OG3人の物語。



「龍馬の里」で夢をつかみました!

高知放送アナウンサー

「内定通知」の瞬間 十文字の友、教職員の応援に感謝!

「局アナ」の難関突破 入社1カ月で大抜擢

有吉さんは昨年、社会情報学部コミュニケーション学科を卒業したばかり。在学中は、不況で厳しさをきわめる就職難のさなか、難関中の難関といわれる放送局のアナウンサーを目指して準備を進めてきた。その競争倍率は実に100倍超。4年生になると全国各地の放送局を受けて回り、見事、9月には高知放送への内定を手に入れる。

そして異例ともいえるのだが、入社わずか1カ月にして、夕方のニュース番組「こちeye」の担当に抜擢されたのである。

「入社してすぐにニュース番組を担当することになり、とても驚沢な思いをさせていただいています。本当はまだ、アナウンスメント技術を習得している途中なんです。それでも、マイクにのった自分の声が、1週間前、1カ月前と違ってきていること

が実感できて、少しずつですが小さな自信が芽生えてきました。それが励みにもなっていますね。」

夢は絶対あきらめない
毎日がエネルギーギッシユ

どんなに目標のハードルが高くても、有吉さんは高校時代からの夢をあきらめなかった。5歳から続いていた新体操の実況放送をテレビで見たと、アナウンサーとして新体操にかかわる道があるかもしれないと将来を思い描いたのが、夢の始まりだった。マスメディアコースのある十文字学園女子大学を選んだことも、その延長線上にある。

大学受験ではA入試の面談で、なりたい自分の姿を語り、アナウンススクールにも通った。在学中は、メディアで働くのに欠かせない幅広い知識をものしよつと、ふだんの授業やゼミの勉強に身を入れるかたわら、メディア研究同好会にも所属。仲間とともに放送原稿を書き、東村山市のコミ

ュニティFMで番組を放送するなど、夢の実現を片ときも忘れないエネルギーギッシユな4年間を過ごした。

周りに夢を口にしてモチベーションアップ

いざ就職活動の時期になると、家族は「就職氷河期」の中でアナウンサーを目指すことを心配した。それでも有吉さんは友人、先生、キャリアセンターの教職員をはじめ、周囲のみんなに絶えず「私がアナウンサーになるためには」と意欲を見せた。自分から夢を口に出すことで、モチベーションを維持し続けたのである。

3年生のうちから各社のアナウンサー試験を受験。その経験をふまえて4年生で再挑戦。夢に向かって一途に進む、そんな有吉さんの姿を見て、十文字の友だちや先生、そして家族がいつも心強いキールを送ってくれた。

ひとりでは難しかった
支えがあるから頑張れた

「就職への高い壁を乗り越えるため、ひとりで頑張るには限界があります。私の場合も、周りの方々の理解と協力を得て、自分はそれに見合った努力をすればいいんだ」と次第に思えるようになったんです。高知放送から内定をもらえたときは、どうやってみんなに感謝の気持ちを伝えたらいいかわからなくなるほど混乱してしまつて…。それだけたくさんの人たちに、私は支えてもらっていたんですね。」

東京世田谷育ちの有吉さんは今、空前の龍馬ブームに沸く南国土佐で、ニュース番組を通じて多くの人に夢と活力を与えている。

(取材・文:佐藤吉朗)



有吉 都さん

高知放送
放送本部報道制作局アナウンス部
[社会情報学部コミュニケーション学科 2009年3月卒]



Graduation

学位記授与式



平成21年度十文字学園女子大学および同短期大学の学位記授与式が、3月19日(金)記念ホールで行われた。社会情報学部人間生活学部、短期大学部から計737名の卒業生が、保護者、学長、理事長、教職員らの熱い祝福を受け、通い慣れた新座キャンパスから社会へと巣立った。

宮丸凱史学長は式辞で、皆さんには、この国を支える側の主役として、他者への優しい視線、不正に立ち向かう勇氣や正義感などの栄養を心に与える生き方を、そしてほしと心から期待します。と門出の言葉を贈り、少子高齢化時代に生きる社会人としての心構えを述べた。

祝辞に立った十文字一夫理事長は就職状況の厳しさに触れながら、現実社会はあなた方が就職先の企業などで十分に力を発

勇氣を持って強く、やさしく社会を支える主役であれ

揮い、皆のためになるかどうかが問われます。小さな失敗を恐れず、大きな目標を持って自分を磨いてください。そして、自分を一層磨くために、大学のキャンパスにもまた足を運んでください」と激励。本学での学びを社会で生かし、人間力を向上させる努力に期待した。

これを受けて、卒業生代表の石井知美さん(人間生活学部人間福祉学科)が答辞に立ち、十文字学園での4年間の学生生活は、長いようであつたという間で、さまざまな人と出会い、さまざまなことを学び、たくさんものを得ることができた。充実した学生生活を送ることができたことに、大きな喜びを感じています」と、感謝の気持ちを伝えた。

(取材・文:副編集長・上野志織)

Congratulations!

ご卒業、ご入学
おめでとうございます!

Enrollment

入学式

桜舞うキャンパスで門出の式
心と知恵と行動力を育むために



初々しいスーツに身を包んだ新入生が新座キャンパスの桜の花びらを踏みしめ、期待に胸をふくらませて入場した。平成22年度入学式が4月6日(火)、十文字学園女子大学記念ホールで開催された。新入生総数はのべ922名。

式辞に立った宮丸凱史学長は、きちんとした基礎づくりのため、知識を行動レベルにまで高められる大学生活を送ってください」と激励。十文字一夫理事長は、他人と「コミュニケーション」をとりながら、大事なことを吸収するように努めてください。一日一日を無駄に過ごさないで学園生活を送ってほしい」と地道な学びを求めた。

入学生を代表して挨拶に立った吉田聖菜さん(人間生活学部人間福祉学科)は、感謝の気持ちを忘れず、常に他人を思いやる心を養うことを、大学という学びの場で勉学に励みつつ修得していきます」と誓いの言葉を述べた。

学生生活は、おそろしくあつという間に過ぎていくだろう。しかし、この濃密な時間こそ、力を蓄える好機である。果たして数年後、どのような自分の「色」をもって卒業を迎えることができる

だろう。高校生までの自分と別れを告げて新たな自分を迎えられる、その準備の式に立ち会ったことができた。

(取材・文:大野詩歩記者/松岡みどり記者)



養護教諭

吉田初代編集長が聞く

大学で学んだカウンセリング、
感染症の知識が役立つ



藤井 遥さん

東京都公立小学校養護教諭
[人間発達心理学科 2008年3月卒]

藤井遥さんが養護教諭を務める小学校は、のどかな住宅地の一角にある。保健室には入りやすい雰囲気があり、掲示物などもよく工夫されていた。

藤井さんが養護教諭を目指したのは子どもとの心と体のケアを担う仕事に魅力を感じたから。子どもたちから「ありがと」と言われたり、保護者から感謝の手紙をもらったりするときに、「この仕事についてよかった」と思える瞬間だ。悩みを聞いてあげたりするときは、十文字で身につけたカウンセリングの技術が特に役立つという。「受容」「繰り返し」などの手法を用いて話を聞き、健康状態を見るときは衛生学の授業で習った感染症などに関する知識も総動員する。

職場の上司や同僚の先生方もそんな藤井さんの力を高く評価しているそうだが、自分では、まだまだ経験不足

だな」と省みることが少ない。これからはもっと経験を積み、勉強をしたい」と言っている。周囲からの信頼が得られるのだから、周囲に向けたメッセージにも、温かな人柄や仕事への熱い思いがにじんでいた。「大学ではいろんなことに挑戦してほしい。養護教諭は一人なので孤独を感じることもや、辛いこともあるけれど、そのたびに子どもたちに救われて、その何百倍もうれしい場面があるんです」

私も新米教諭として働くその日、この素晴らしい言葉でスタートさせよう」と心に刻んだ。

(取材・文:吉田美紀/初代本誌編集長)



あさか野農協職員

卒業生レポート

学生記者の活動の延長
地域の温かさで農家の大切さを知る



小嶋麻依加さん

あさか野農協職員
[社会情報学部コミュニケーション学科 2010年3月卒]

今春、あさか野農協に勤めはじめた約半年間、農協が運営する「和光農産物直売センター」でアルバイトとして働きました。そこで実感したことは、地元農産物の素晴らしさ。実際に味わってみて、その新鮮さと野菜本来が持つうまみに感動させられました。

もともと食の安全や食料自給率などの問題には関心がありました。が、「食が身近にある環境」を体験したことでさらに興味が増えました。まさに初めて知ること、学ぶことの連続で、「地域社会が大学生にこんなにも大事なことを教えてくれる」と驚きもして、早く社会に出て働きたいという思いがいつそう強くなったのです。

学生時代には本誌の学生記者として地産地消について学ぶ機会もあり、またパソコンを使った新聞編

集の経験や、この農産物直売センターでの就労体験、そして授業で学んだ知識の数々が、これからの仕事に欠かせない糧になると思います。何よりも私の就職が、毎日通った十文字での学びの先にあつたことに感謝深さが募ります。

地域に密着した仕事、人とのつながりを大切に仕事で成果を出すことが、これからの私の目標です。十文字のキャンパスがあるこの土地で農業の発展に携わり、農家の方々と触れ合うことのできる仕事に、とても大きな意義を感じています。

(本誌元副編集長・寄稿)



「氷河期」の就職活動 問われる学力、人間力

「氷河期の再来」、まさにこの言葉が当てはまる2009年度の就職環境であった。厳しいとはいっても、の、年度当初には、困憊世代の大量退職」や、氷河期に採用を抑制したことによる企業のアンバランスな人員構成への反省」などから、氷河期のような事態までには至らないという声も多く聞かれた。

本間 修 キャリアセンター長

企業の慎重な採用姿勢の中で続いた就職活動

「氷河期の再来」、まさにこの言葉が当てはまる2009年度の就職環境であった。

比マイナス6.3%、短大内定率67.3%(同マイナス8.5%)と、多くの学生が就職できない異常な状況となっている。



厳しさ増す採用基準

「人間力」が可否の決め手

さて、本学の就職状況であるが、多数の卒業生を送りだしてきた伝統ある幼稚園教諭や保育士、さらに栄養士の職種、採用意欲が高い介護職などの専門職については、概ね例年どおり順調に内定者を増やすことができた。

一方で事務や販売といった職種については、各企業の慎重な採用姿勢の前に苦戦を強いられる学生が続出した。その採用姿勢は今までになく厳しいものがあり、な

んとなく感じがよい」といった曖昧な選択基準ではなく、基礎学力や学生生活の内容、「コミュニケーション能力など、さまざまな角度から徹底的に学生の資質を追求するものであった。

想される。帝国データバンクによる「2010年度の雇用動向に関する企業の意識調査」平成22年3月3日)においても、有効回答企業約1万社のなかで、正社員採用予定なし」の回答は47.5%に達しており、昨年度をさらに1.6%悪化させる結果となっている。また、実際に企業訪問をしてみても、採用計画について慎重な発言をする人事担当者が目立っている。

2010年度の就職環境を展望すると、さらに悪化することが予

切つてもらいたい。

平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに、本学の「就職システム改善、講座開設等の就職支援強化による学生支援」が採択されました。

今回採択された本学のプログラムは、以下のようにシステム面と学生指導面の2つの取り組みから構成されています。

現在、運用されている就職支援システム機能(求人情報閲覧、エントリー機能、企業情報収集等)に、活動状況把握やデータ集計機能を加えてシステム全体のバージョンアップ。コミュニケーションスキルアップやマナー向上などを目的としたさまざまな講座開設、キャリアアドバイザーによる就職指導強化、教職員に対する学生対応レベル向上等の研修など。



キャリアセンターでは、引き続きこのような機会を積極的にとらえることで、就職指導力の全学的な向上を図っていきたくと考えています。

Data

2009年度卒業生の主な就職先

社会情報学部

Table listing job destinations for the Department of Social Information, including companies like 青木信用金庫 and 武蔵野フーズ.

人間生活学部

Table listing job destinations for the Department of Human Life, including 丸和油脂 and 武蔵野フーズ.

人間福祉学部

Table listing job destinations for the Department of Human Welfare, including 丸和油脂 and 武蔵野フーズ.

人間発達心理学科

Table listing job destinations for the Department of Psychology of Human Development, including 丸和油脂 and 武蔵野フーズ.

短期大学部

Table listing job destinations for the Short-Term University Department, including 丸和油脂 and 武蔵野フーズ.

Table listing job destinations for the Department of Social Information, including 丸和油脂 and 武蔵野フーズ.

Table listing job destinations for the Department of Human Life, including 丸和油脂 and 武蔵野フーズ.

別科生の志高く、1年間の集大成 第10回「日本語スピーチコンテスト」

本学留学生別科で日本語を学ぶ留学生たちが、3月12日(金)第10回を迎えた。日本語スピーチコンテストで日頃の勉強の成果を発表した。

別科生にとってこのコンテストは、約1年間、日本語や日本文化について学んできたことの集大成を披露する晴れの舞台。チャレンジする旅を続けたことで最優秀賞を獲得した中国出身のテイ・ゲイカさんは、変わるこそ成長につながるはず。旅を続けられることは幸せと熱く語りかけた。

せは成る。の名言を掲げ、諦めることなく物事に取り組む姿勢の大切さを訴えた。いずれも日本語力だけでなく、個人の志の高さを感じさせるものばかり。その舞台裏では、本誌学生記者の手ほどきで日本語の正しい発音を繰り返し練習する姿があり、留学生と日本人学生との「共生」の絆も深まった。



最優秀賞のテイ・ゲイカさん。

学長が讃える「課外活動」優秀賞 オリエンテーリングの2選手、健闘

毎年恒例となった「課外活動等優秀者」の表彰式が、2月25日(木)に学長室で行われた。この1年間の課外活動で特に顕著な成績を上げ、課外活動の振興に貢献があったクラブや個人を讃えるもので、宮丸凱史学長より賞状と記念品が授与された。

受賞者
高野美春(児童幼児教育学科3年)
2009年度、日本学生オリエンテーリング選手権ロングディスタンス競技大会「優勝」女子学生チャンピオン
林 美樹(人間発達心理学科2年)
2009年度、オリエンテーリングジュニア世界選手権大会「日本代表選手」



賞状を手に宮丸学長と。(左)高野さん。(右)林さん。

歌舞伎の世界へ誘って「江戸演劇史」

渡辺保客員教授が出版記念の公開講座

2月18日(木)、池袋の東京芸術劇場でエクステンションセンター主催の公開講座「江戸演劇史の人々」が開催された。当日は午前中に大雪が降るにもかかわらず、80名を超える参加者が集まった。講師は、女形の運命で芸術選奨文部科学大臣賞、忠臣蔵で平林たい子文学賞を受賞した演劇評論家で、本学客員教授の渡辺保先生。渡辺先生は昨年7月、江戸演劇史(上・下)「講談社」を出版、これを記念して公開講座を企画した。

この日は江戸時代に活躍した歌舞伎の代表的人物、出雲のお国「初代團十郎」

「四代目團十郎」「五代目若井半四郎」、河竹黙阿弥を取り上げ、当時の時代背景を現代の政治や経済になぞらえながら、ユニークな交えた巧みな話術で聴衆を一気に歌舞伎の世界へと引き込んだ。



地域とふれあう

「お花見会」大盛況

学生企画のアトラクション満載

地域連携協力推進センター主催の「お花見会」が3月30日(火)に行われた。新座市の金子廣志教育長をはじめ、近隣の福祉施設、新座市商工会、新座市社会福祉協議会、町内会の方々など、合わせて300名以上の方に参加いただき、大変な賑わいを見せた。

会場となったカフェテリアやグラウンドでは、茶道部によるお点前の披露や箏曲部の演奏、和太鼓民舞踊同好会の演奏、学生が育てた菜の花のプレゼントなど、さまざまなアトラクションが行われ、本学学生60名がボランティアでホスト役を務めた。

参加いただいた方々からは、「ぜひ、来年も来たい」との感想をいただくことができ、実施に携わった学生も充実した1日を送ることができた。



桜もほころびはじめた晴天のもと、和太鼓民舞踊同好会の力強い演奏がグラウンドに響いた。

若桐会だより

第42回

「若桐会総会」開催のご案内

日時：平成22年6月6日(日)12時より
場所：本学7号館1階カフェテリア

総会は、21年度事業報告・会計報告、22年度事業計画案・予算案を審議し、続いて懇親会を開催いたします。

懇親会では恩師とともに卒業生が部会ごとにテーブルを囲み、近況報告や情報交換をしながら美味しいお料理をお楽しみください。また教職員協賛の豪華プレゼントが当たる抽選会も予定しております。

会員の皆様お誘い合わせのうえ、多数ご出席ください。ご案内申し上げます。同封の出欠席はがきに必要な事項をご記入のうえご投函ください。

詳細については、「新座だより」と一緒に「若桐会総会のご案内 出欠席はがき」を同封いたしましたので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。

第3回 還暦を迎えた卒業生を 若桐会にご招待!

【招待の卒業生】昭和45年3月卒業生
【招待の学科名】家政科・幼児教育学科

本年3回目となります。還暦を迎えた卒業生を若桐会総会へご招待いたします。同窓会創立40周年記念行事としてはじめたこの企画も、おかげ様で

皆様からご好評をいただいております。これもひとえに卒業生の皆様をはじめ、大学関係皆様のご協力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

卒業から40年、すてきな歩みを重ね、今、人生の折り返し点を迎えられる3期生の皆様に、ささやかではあります。心こめて、還暦のお祝い「を申し上げます。十文字という縁で結ばれた心のバトンを力強くつなぎ続けていきましょう。

家政科・幼児教育学科3期生の皆様、お誘いあわせのうえ、ぜひ母校へお運びいただけます。ご案内申し上げます。ご案内申し上げます。同封の出欠席はがき「に必要事項をご記入のうえご投函ください。ご返信申し上げます。

皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。ご返信申し上げます。ご返信申し上げます。ご返信申し上げます。



還暦を迎えた家政科・幼児教育学科第2期卒業生の皆さん(昨年度総会にて)。

部会創立35周年のお知らせ

平成22年度、同窓会若桐会部会は創立35周年を迎えます。各部会は学科の

特色を生かした記念行事を開催いたします。

卒業生の皆様、5年に一度の記念部会行事にぜひご参加ください。全体の同窓会とはまたひと味違う、部会(学科)により身近な仲間同士が集う会です。同じ部会(学科)の同級生や先輩・後輩が、恩師を囲んで、肩を寄せ合い親睦を深めることのできる楽しい情報交換会です。

記念行事開催時期に合わせて、それぞれの部会より卒業生の皆様へご案内をお送りいたします。今号の「新座だより」にもご案内チラシを同封している部会もありますので、ご覧ください。

皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。ご返信申し上げます。ご返信申し上げます。ご返信申し上げます。



部会創立30周年記念行事(社会情報学部部会)

住所、氏名等の変更は本学同窓会「若桐会」までご連絡ください
十文字学園若桐会 各部会(卒業学科)
TEL: 048-477-0555 (代表)
FAX: 048-478-9367
卒業学科・卒業年を必ず明記のうえお送りください。

**百年前の「おみくじ」で
日本古来の文化を学ぶ**
演習のテーマについて教えて
ください。

平野 幕末から明治の初め頃にかけて作られた「おみくじ」を読み解いて、当時の人々の生活や精神について考えていきたいと思っています。

具体的にはどのような「おみくじ」なのでしょう。

平野 明治期以前の「おみくじ」50枚1組を研究費で購入できたので、それを読んでいく予定です。くずし字で書かれていますので、まずこれを読解するための基礎トレーニングを授業の初めに行います。

「くずし字」というと難しく感じるかもしれませんが、江戸時代には寺子屋で子どもたちに教えられていたわけですから、慣れば皆さんも必ず読めるように

なりますよ。おみくじの解説は簡単な古語で書かれていますし、和歌も添えられています。昔のおみくじに触れながら、くずし字と古文と和歌が読めるようになるという、一粒で何度も美味しい演習です。

**実物だから感じ取れる
文学を味わう醍醐味**

「おみくじ」を題材に選ばれたのはなぜですか。

平野 おみくじや占いは以前から好きでしたが、それを研究の対象にしよつとは思っていませんでした。でも、十文字学園女子大学に着任して、学生の皆さんに興味を持ってもらえる日本文化の授業を模索しているときに、「おみくじ」なら楽しみなから学んでもらえるのではないかなと思いついたのです。

当初は日本各地のおみくじを集めて、それを分類するところ

から始めました。そのうちに、おみくじのルーツに興味に向くようになり、今は和歌のおみくじのルーツをたどる研究をしています。その研究の一環で、昨年のゼミでは、室町時代の和歌占いである「歌占」をテーマにしました。これは桐華祭でも発表して、2日間で500人もの方が集まるほどの評判になりました。

今年は幸いなことに、学生にも読めそうなおみくじをセットで入手できたので、それを読むことに決めました。実物に触れる醍醐味を肌で感じてもらえたら何よりです。

受講生に望むこと、期待することを教えてください。

平野 演習で誰がどのおみくじについて発表するかは、各自が実際にくじを引いて決めていきます。自分だけのおみくじを担当するわけですから、知識だけでなく、



昨年秋の桐華祭では室町時代の和歌占「歌占(うたうら)」を披露。大人気を博し、桐華賞(埼玉県知事賞)も受賞。左端が平野先生。

これが明治時代の「おみくじ」。このくずし字を読む訓練から演習の第一歩が始まる。

平野先生の演習データ

2年生：8人
幕末から明治初期につくられた「おみくじ」を題材に、その内容から当時の人々の生活や精神のあり方を読み解く。科目名は「日本文学・文化演習」。

ゼミ生に聞きました

平野先生は私たちの自由な意見を取り入れたうえでアドバイスをしてくださるので、自分の発想をよりよく広げることができます。机を輪のように並べ、みんなの顔を見ながらの授業なので、意見交換もしやすく、知識に加えてプレゼンテーションについても楽しく学ぶことができました。(2010年3月卒 島田由佳)

Profile

ひらの・たえ 短期大学部文学科国語国文専攻准教授。お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業。東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程修了。博士号(文学)取得。
[研究分野] 日本中世文学、和歌文学、仏教文学、日本古典文化
[担当科目] 日本文学史II、日本文学・芸術文化入門、日本文化論XI(書物の文化)、日本文学講義IV(徒然草)、芸術文化演習 など

日本文学



増田吉史教授(副学長・学生部長)
人間生活学部児童幼児教育学科児童教育専攻



問題解決のプロセスこそ「算数教育」の真価がある

**教師を志す学生に
苦難克服の指導力を**

増田教授の児童教育専攻1年生必修科目「算数概説」の出題に、「パスカルのピラミッド」がある。ピラミッドの石は全部で17段。まず、75ペんから一番下の17段目まで外側はすべて1(奇数)と数え、3段目以降の 1 に書き込む数字は、すぐ上段にある2つの石に書き込まれた数字の和(合計)とする。これを条件に下に降りていくと、17段目は奇数・偶数がどう並びか答えよ、という問題だ。

下段へ降りるほど数字が大きくなり、計算に時間がかかるこの問題をどう解くか。残念ですがかなりの人は何も考えず、ほとんど計算を続け、制限時間切れになるか、途中で計算を間違えてしまつ。これでは到底、算数を好きになれないのです。

増田教授の解説はこうだ。最後まで計算しなくても、上段における偶数と奇数の関係を眺めているうちに、「偶数+偶数」「偶数+奇数+奇数」「偶数+偶数+偶数+奇数」「奇数+奇数+奇数+偶数」「奇数+偶数+偶数+偶数+奇数」という決まりにハタと気づく。この決まりに従い、の中に偶数あるいは奇数と書き込んでいくと、17段目は両端だけ奇数で内側は全部偶数となるきれいな答え

が出るのである。(図参照)「一例ですが、これが算数を学ぶ最大の価値と言ってよい問題解決のプロセスなのです。しかし、こうした地道な授業改善の一方で、現実には進学塾教育の弊害や知識偏重主義ゆえに、「生徒の思考の時間をつぶし、その面白さを捨て去ってしまう教え方」が広がってしまつた。

「教え子たちが晴れて教諭になったとき、決して算数嫌いの生徒をつくらないでほしい。単なる知識を切り売りしても、問題は解決できない。その問題が何を問っているのかを読み取り、算数で学んだ問題解決のプロセスによつて的確な答えを見つけ出す力を与えてこそ、子どもが大人になったとき、判断を誤らず、挫折しないで生き抜いていく基礎となるはずだ。

これが増田教授の明解な教育目標であり、算数教育改善の情熱は、昨年から新座市立八石小など4つの小学校での教諭との校内研究会へと発展し、地域貢献にも一役買っているのである。

**念願の「学級経営法」
児教新科目に導入**

小学校教諭、校長として36年、本学教授となつてからも、算数教

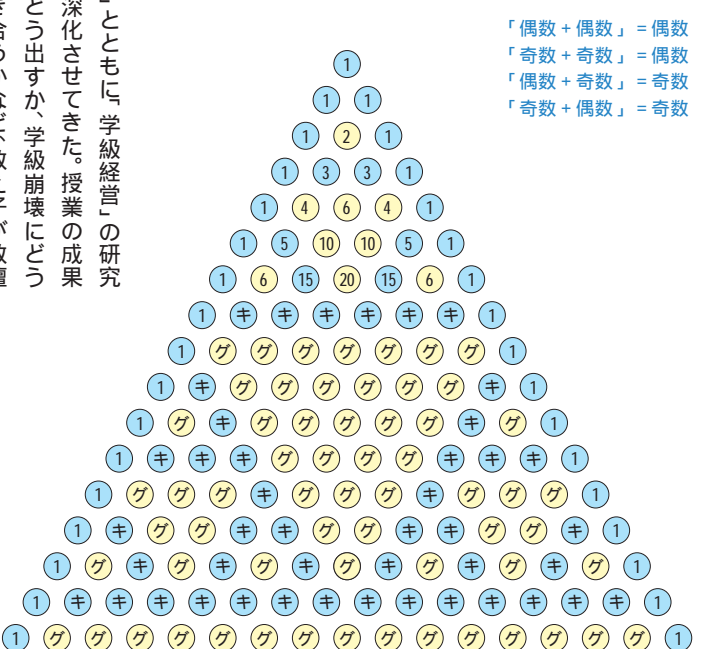
育」とともに「学級経営」の研究を深化させてきた。授業の成果をどう出すか、学級崩壊にどう向き合つかなど、教え子が教壇に立つときの悩みを克服する指導法は、本年度から担当する二二一ク新科目「学級経営法」として結実した。

この4月、平成23年度改組を前に本学副学長(教育担当)に就任した。何を指す授業であるかが学生にしっかり伝わっているか。興味ある科目を学科の垣根を越え柔軟に受講する体制はどこまで可能か。学生たちの先輩後輩の縦のつながりをもっと強くするためには……。思いは巡り忙しさは増すばかりである。(取材・文：大西正行)

Profile

ますだ・よしふみ 人間生活学部児童幼児教育学科児童教育専攻教授・副学長・学生部長。東京学芸大学教育学部初等教育教員養成課程数学科卒業。東京都小学校教諭を経て、東京都立教育研究所部長、港区立白金小学校校長等を歴任。日本基礎教育学会事務局長、新算数教育研究会研究事業部副部長。
[研究分野] 小学校教育、算数教育、学校経営、学級経営、教育課程、教師論
[担当科目] 算数概説、初等算数指導法、学級経営法、教職演習

パスカルのピラミッド(奇数・偶数)



From Faculties

社会情報学部 デジタルテクノロジーコース 資格取得を強力サポート 社会人基礎力を高めたい

デジタルテクノロジーコースでは、社会に役立つ有用な人材を育成することを目的とした教育を進めている。コンピューター関連の仕事を目指している人はかりでなく、事務系の職種に就きたいと思う人たちにとっても、実際に使えるコンピューターの知識や活用力は今や必要不可欠なスキルとなっている。



児童幼児教育学科 児童教育専攻

「なぜ」から始まる教育で 理科はもっと楽しくなる

子どもたちに理科や科学に興味を持ってもらうには、まずは教師自身がそれを好きになることが大切。そうした観点から児童教育専攻では、科学的な思考力や表現力を育くむために、また、ものづくりの大切さを実感をもって理解するために、指導担当教授とともに「考える授業」に取り組んでいる。4年生の野島勝江さんはこう話す。



社会情報学部 ビジネス情報コース 新たな希望を胸に卒業へ 留学生を含む39人の門出

3月19日(金)、ビジネス情報コースの4年生39名は、晴れやかな表情で卒業の日を迎えた。その中でも特に目を引いた華やかな民族衣装で出席したのは、中国内モンゴル出身の冬梅(トウバイ)さんである。冬さんは禁煙に関する意識と政策に興味を持ち、卒論のテーマに選んだ。その成果は3月7日(日)に埼玉県男女共同参画センター「アカデミズムの扉を開く」において発表された。冬さんは今後も研究を続けて、内モンゴルにおける禁煙の社会文化に貢献したいと意欲を示している。



発表会場での冬梅さん。 左から八巻里佳さん、王有恵さん、冬梅さん、卒業式学科代表および成績優秀者の矢島里香さん。

食物栄養学科

ありがとう山本誠子教授 別れを惜しみ、感謝の会



3月12日(金)、多くの卒業生や在校生、教職員が集まるなか、この3月で退職された山本誠子先生を囲む会が開催された。十文字で過ごされた16年間を懐かしむかのようにゆつくりと、学生とともに進めてきた卒業研究を振り返る山本先生、梨もどき(酢煮じゃがいも)の調理に関する検討「いももちのレオロジー的性質」、良質の乳カド形成に向けての生薑搾汁の牛乳凝固性についての検討など、当時の思い出を交えながらのお話だった。

人間福祉学科

介護フェス 大成功！ 専門職を目指す学生も奮起

2月21日(日)、人間福祉学科が主

コミュニケーション学科 マスメディアコース 後輩たちの目も輝く 卒業研究ポスター発表会



真剣な面持ちで、飯田ゼミ杉田真綾さんの発表に聞き入る下級生たち。

1月23日(土)、本学カフエテリアにおいて「マスメディアコース」の卒業研究ポスター発表会が開催された。昨年から始まったポスターセッションだが、今年からはすべてのゼミが参加し、1年生から4年生までのべ300人が会場に集まった。

下級生は自分の将来の卒論作成のために、キラキラ輝いている4年生たちの発表に聞き入っていた。質疑応答も活発に行われ、身近なロールモデルを見つめる絶好のチャンスとなったことだろう。4年生は自分たちの学びの集大成である卒業研究を多くの人に聞いてもらえ、さらに達成感が増したと感じたようだ。上級生と下級生とのコミュニケーションの場としても、大いに盛り上がった1日であった。

コミュニケーション学科 現代社会コース 大学4年間の集大成 卒論の意欲作が続々と

暮らしてビジネスの法律(民法)を扱う阿部ゼミでは、環境問題と法律、食品偽装事件と法律遵守のあり方やYouTube(動画共有サイト)でのテレビ配信と著作権問題などが卒業研究のテーマとなった。著作権はビジネスの法律問題に取り組んだ4年生の申橋薫さんは、最新のビジネスモデルがはらむ法的課題を扱った学術的な先行研究が少ないなか、類似判例を検証し、刻々と変わるビジネスモデルを新聞などから抽出したうえで、既存の法的枠組みとの詳細な比較検証を行うて分析した。情報ビジネスの先進国であるアメリカの枠組みから我が国の問題点に切り込んだ視点も意欲的であった。



卒業式を迎え、晴れた阿部の面々。

申橋さんは言う。「日米の判例を集め、整理分析する作業は大変でしたが、書き上げた達成感はこのからの自信となりそうです。」

大学で学んだカウンセリングマインドを応用。心理学の知識は幅広く役に立つので、勉強しておいて本当に良かったです。(相田実穂さん) 養護教諭として埼玉県内の中学校に勤務しています。心理学で学んだカウンセリングの技法や、人間関係・集団の心理などの知識が、健康相談や生徒との関わりのおかげで役立っています。心や気持ちに関する保健指導や掲示物は、生徒に好評です。(後藤友香さん) それぞれの道で活躍中である。先日、第三期生が無事卒業した。がんばれ、心理学科卒業生！

短期大学部文学科 国語国文専攻

書道ガールズ、篆刻楽し 宮崎駿アニメ講座も好評

書道ガールズが流行るこの頃、書道家である鈴木慈子先生は授業に、書道部の指導にと大忙しである。2月には短大生と大学生を引率し、横浜大倉山記念館で篆刻講座を行った。吉永隆山先生(毎日書道展審査委員)の懇切丁寧な指導に、瑞の字を篆書で彫って楽しかったと国文2年の鈴木瑞貴さん。

また、国文新入学予定者のために開いた武田比呂男教授の特別講座「千と千尋の神隠し」も好評。武田先生は人気の宮崎アニメのストーリーを民俗学的に楽しく分析してみせ、高校生からもより深く味わえた」と声が上がった。後期は劇団四季のミュージカルを鑑賞、また小嶋知善先生の指導で

児童幼児教育学科 幼児教育専攻 幼児5期生が晴れの卒業 別れてさらに深まる絆

幼児教育専攻が4年制大学に移行してから今年でもう8年。この春、第5期生の卒業式を無事に終えた。学生たちの努力の成果が実を結び、幼教は今年も専門就職率100%達成という結果につながったことは大変よろこばしい。

人間の大半を学校で送ってきた学生たちにとって、大学を卒業するということは、これまでの学校生活に決別し、まるでワープでもするかのように、社会という別世界に飛び出していくことを意味する。4年生になるとそれを惜しむかのように大学に通い、友と語り、本を読み、充実した学生生活を展開する学生が多く見られる。そして卒業後は、職場で、また講習会や研究会などの研鑽の場で、同じ大学の先輩・同輩を問わずに長きにわたって関係を築いていくのが、幼教の特徴である。

同じ環境でともに4年間を過ごしたことから生まれる不思議な絆が、仕事をたらい回し上でのよい相乗効果をもたらしていく。まさに40年を超えて受け継がれてきた幼教ならではの歴史の重みと言ったことができるだろう。これが幼児教育専攻の伝統である。

プロ顔負けのボツブで色鮮やかな雑誌を制作した。

短期大学部文学科 英語英文専攻

万感の想いを胸に別れの時 卒業祝賀パーティー開催

平成21年度卒業式当日の午後、池袋のRoveria Tokyoで卒業祝賀パーティーを開催した。プランニングから集金、会場との折衝など、祝賀パーティー委員の学生たちがすべてのプロセスを担当した。

専攻主任の挨拶に始まり、乾杯、そしてヒューフェ・スタイルの美味しい食事。アトラクションとして、学生が企画したプレゼントのくじ。特賞はティズ・ブランドのペアチケット。の数字が読み上げられるたびに、大きな歓声が上がった。



入学から卒業までの思い出の思い出ショーの観賞が終わると、2年間の学生生活に「いよいよ別れを告げる」とを実感。卒業後の健康と幸せを心から祈りた。

2010年度5月～9月の「公開講座」

今年度も下記のとおり公開講座を開催します。ふるってご参加ください。
公開講座のお知らせは、本学ホームページにも掲載しています。

社会情報学科公開講座

「生活に役立つ情報講座」(全6回)

第1回

「プログラミング体験講座～Excel VBAを使ってプログラミングに初挑戦～」(実習形式)

日時▶5月8日(土)13:00～16:00
講師▶泉直子(社会情報学部教授)、中尾茂子(社会情報学部教授)

定員▶25名

第2回

「画像作成体験講座～フォトショップでデジタル写真の加工・合成に挑戦～」(実習形式)

日時▶5月22日(土)13:00～16:00
講師▶新行内康慈(社会情報学部准教授)

定員▶25名

第3回

「3次元コンピュータグラフィックス体験講座～Shadeを使って初めての3DCGに挑戦してみよう～」(実習形式)

日時▶6月19日(土)13:00～16:00
講師▶栗原隆史(社会情報学部教授)

定員▶25名

第4回

「国際会計基準(IFRS)導入でなにが変わるか」(講義形式)

日時▶6月26日(土)13:00～15:30
講師▶本橋隆夫氏(公認会計士・東陽監査法人代表社員)

定員▶150名

第5回

「Linux構築体験講座～Linux構築とオープンオフィスソフトウェアの利用体験～」(実習形式)

日時▶7月24日(土)13:00～16:00
講師▶若山院一(社会情報学部教授)、小野裕次郎(社会情報学部准教授)

定員▶25名

第6回

「ブログサーバ構築体験講座～WordPressを使ってブログサーバを作ってみよう～」(実習形式)

日時▶9月11日(土)13:00～16:00
講師▶牧村信之(社会情報学部教授)、田倉昭(社会情報学部教授)

定員▶25名

国語国文学会講演会

「日本文学とチンギス・ハーン」

日時▶5月29日(土)13:30～15:00
講師▶小長谷有紀氏(国立民族学博物館教授)
コーディネーター▶小林実(短期大学部文
学科国語国文専攻講師)

内容▶モンゴル文化の研究者である小長谷有紀氏を講師に迎え、遊牧民の暮らしと、日本人のモンゴルイメージの違いについてご講演いただきます。



講師の
小長谷有紀氏

定員▶200名(一般枠50名)

十文字学園女子大学幼児教育研究会

第36回幼児教育研修会

「保育の基本:子どもの健康について考える」
日時▶8月7日(土)9:30～16:30
講師▶平田智久(人間生活学部教授)、齋藤麗子(人間生活学部教授)他

コーディネーター▶向井美穂(人間生活学部准教授)他

定員▶約200名

会費▶一般3000円、学生1000円

新座市内大学公開講座

「十文字で遊ぼう 十文字で学ぼう」(小学生向け講座)

第1回「水ロケットで遊ぼう」
水ロケットを製作し、天気が良い場合はグラウンドで打ち上げ実験を行います。

日時▶9月25日(土)13:30～15:30
講師▶井口磯夫(人間生活学部教授)

定員▶30名

対象▶小学5、6年生

共催▶新座市教育委員会・十文字学園女子大学

予約方法・受付期間/お問い合わせ先

参加ご希望の方は、申し込み受付開始日(各講座の1カ月前)以降にご予約ください。先着順で定員になり次第締め切ります。

社会情報学科公開講座「生活に役立つ情報講座」

1回から参加できます。第4回以外の実習形式の講座はパソコンの基本操作ができる方が対象です。メールでご予約ください。第4回については電話・メール・FAXのいずれかでご予約ください。各講座の1カ月前から予約受付開始いたします。

国語国文学会講演会

電話・メール・FAXのいずれかでご予約ください。現在、予約受付中です。

新座市内大学公開講座

電話・メール・FAXのいずれかでご予約ください。9月1日(水)から予約受付開始いたします。

第36回幼児教育研修会

お問い合わせは、十文字学園女子大学人間生活学部児童幼児教育学科まで。
TEL:048-477-0555(代表)

受講希望の講座名、氏名(ふりがな)、電話番号、講座をお知りになった媒体をご記入のうえ、お申し込みください。

新座市内大学公開講座については、年齢、職業、郵便番号、住所もご記入ください。メールでのお申し込みの場合は、「受付完了メール」の受信をもって受付完了となります。

【受講料について】

全講座無料(8月7日:第36回幼児教育研修会を除く)

エクステンションセンター

E-mail: ext@jumonji-u.ac.jp
TEL: 048-477-0579(直通)
平日9時～17時、土曜9時～13時
FAX: 048-477-0764

Personnel Affairs

2010年度

役職紹介

 橋本ヒロ子 副学長(募集・就職担当) 社会情報学部長	 増田吉史 副学長(教育担当) 学生部長(大学)	 志村二三夫 副学長(総務担当)/人間生活学 学部長代行(大学・短大) 長/教育開発センター長 (大学・短大)	 横須賀 薫 学事顧問 学部長代行(大学・短大) 教育体制改革推進本部長	 宮丸凱史 学長 (大学・短大)
 田総恵子 コミュニケーション学部長	 牧村信之 社会情報学部長	 栗原隆史 図書・情報センター所長 (大学・短大)	 武田比呂男 学生部長 (短大)	 東 聖子 短期大学部長
 大西正行 留学生センター長 (大学・短大)	 岡村佳子 人間発達心理学科 健康管理センター長(大学・短大)	 安岡英美子 人間福祉学部長	 濱口恵子 食物栄養学部長	 井口磯夫 児童幼児教育学科長
 宮城道子 高齢社会生活研究所長 (大学・短大)	 亀田温子 エクステンションセンター長(大 学・短大)/女性と情報研究セ ンター長(大学・短大)	 狩野浩二 地域連携協力推進センター長 (大学・短大)	 安達一寿 教職課程センター長 (大学・短大)	 福田 仁 国際交流センター長 (大学・短大)

人事異動(2010年3月1日～4月1日)

【大学】教員 退職 任期満了・定年退職含む 人間生活学部教授 青木孝志 同教授 伊藤わらび 同教授 江川玖成 同教授 神山輝夫 同教授 山本誠子 同講師 丸山 晃 復職 社会情報学部教授 アンソニー・ルファ 新任・特別任用教員 人間生活学部教授 小谷スミ子 同教授 齋藤麗子 同教授 松木正子 同講師 宮内寿彦 社会情報学部特別任用教授 大西正行 同特別任用教授 佐々木頭 人間生活学部特別任用教授 江川玖成 同特別任用教授 神山輝夫 同特別任用教授 杉原 隆 同特別任用教授 柳本雄次 留学生別科特別任用教授 阿子島茂美 社会情報学部特別任用准教授 小笠原典子	客員教授 昇任 社会情報学部教授 角田真二 人間生活学部教授 狩野浩二 同教授 山本 悟 社会情報学部准教授 松永修一 人間生活学部准教授 鶴木恵子 同准教授 風間文明 同准教授 野口隆子	渡辺 保 角田真二 狩野浩二 山本 悟 松永修一 鶴木恵子 風間文明 野口隆子	と情報研究センター長(大学・短大)・コミュニケ ーション学科現代社会コース主任 亀田温子 児童幼児教育学科幼児教育専攻主任 平田智久 児童幼児教育学科児童教育専攻主任 黒瀬直通 社会情報学部デジタルテクノロジーコース主任 栗原隆史 社会情報学部ビジネス情報コース主任 星野敦子 コミュニケーション学科マスメディアコース主任 島村豊博
【短期大学部】教員 定年退職 文学科教授 小布施圭佐三 新任・特別任用教員 文学科講師 落合真裕 同特別任用准教授 柿元資子 昇任 文学科教授 橋本克己 同准教授 加藤暁子 役職 短期大学部長・文学科国語国文専攻主任 東 聖子 文学科英語英文専攻主任 浜由美子 【幼稚園】教員 嘱託教員 大井登子 主事			

お悔やみ 平成22年2月17日、社会情報学部教授 森美榮先生がご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。